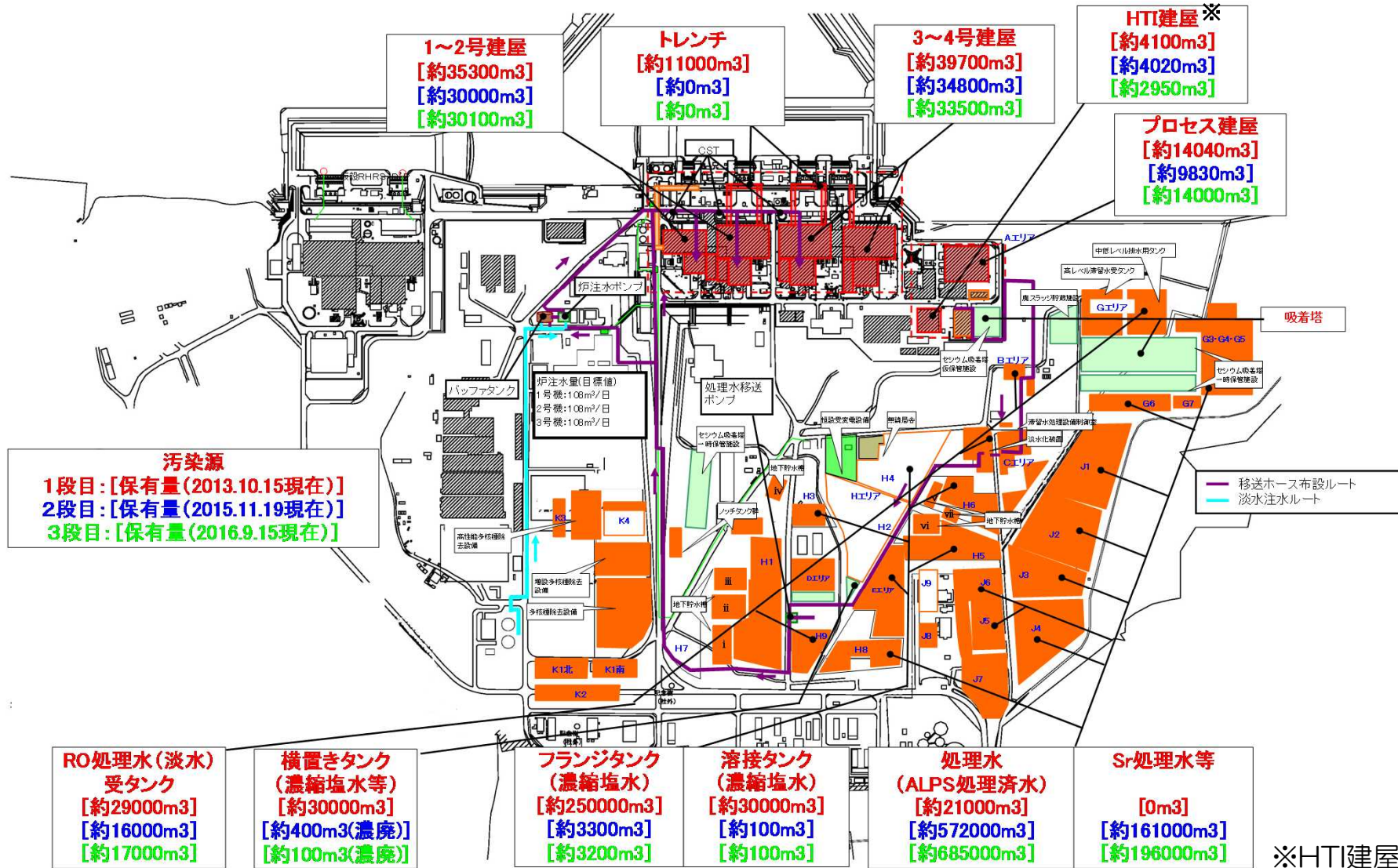


## 参考2-1 リスクマップ詳細

# (1) 汚染水の貯蔵状況

- 建屋貯蔵量：サブドレン水位低下に合わせた建屋水位低下に伴い、水量が徐々に減少。
- タンク貯蔵量：地下水等の流入継続により処理水(ALPS処理済水)、Sr処理水が増加。



※HTI建屋：高温焼却炉建屋

注：濃縮廃液は廃棄物として処理していく

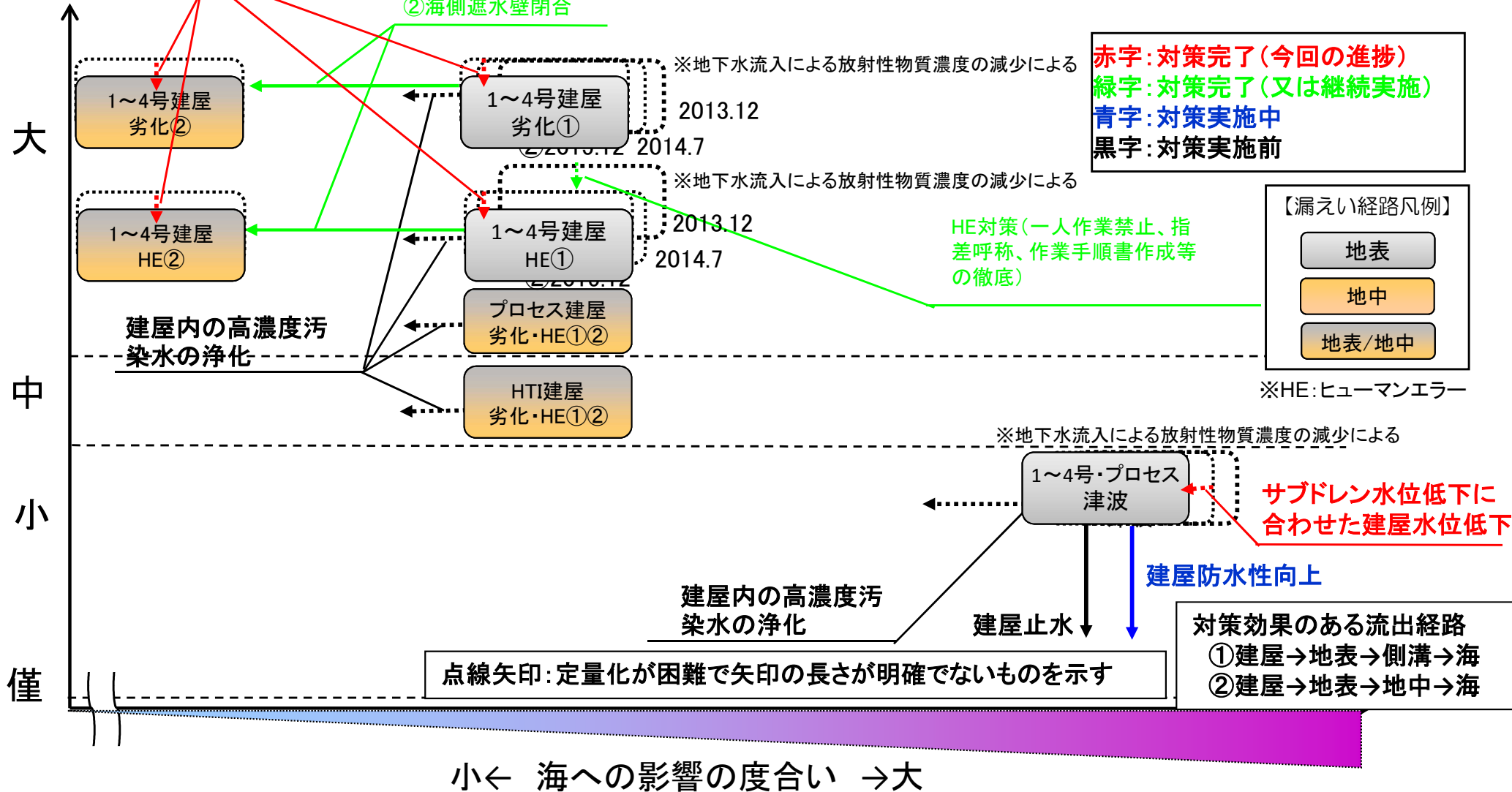
## (2) 各貯蔵箇所毎のリスクの低減状況

- 2016.9現在の各対策の進捗状況に鑑み、リスクの低減状況を評価した。
- 具体的には、以下の貯蔵箇所について、漏えいが発生するイベント（経年劣化、ヒューマンエラー、地震、津波等）毎に実施された対策の効果をリスクマップを用いて評価した。
- 前回評価（2015.12）以降には、以下の対策が進捗している。
  - ・ サブドレン水位低下に合わせた建屋水位低下に伴い、水量が徐々に減少。
  - ・ 濃縮塩水(残水)のフランジタンク解体により、フランジタンク基数が減少。
  - ・ フランジタンク(淡水)底板補修により、劣化の可能性が低下。

| No. | 貯蔵箇所              |
|-----|-------------------|
| ①   | 建屋                |
| ②   | フランジタンク（濃縮塩水）     |
| ③   | 溶接タンク（濃縮塩水）       |
| ④   | 横置きタンク（濃縮廃液）      |
| ⑤   | フランジタンク（ALPS処理水）  |
| ⑥   | 溶接タンク（ALPS処理水）    |
| ⑦   | フランジ／溶接タンク（Sr処理水） |

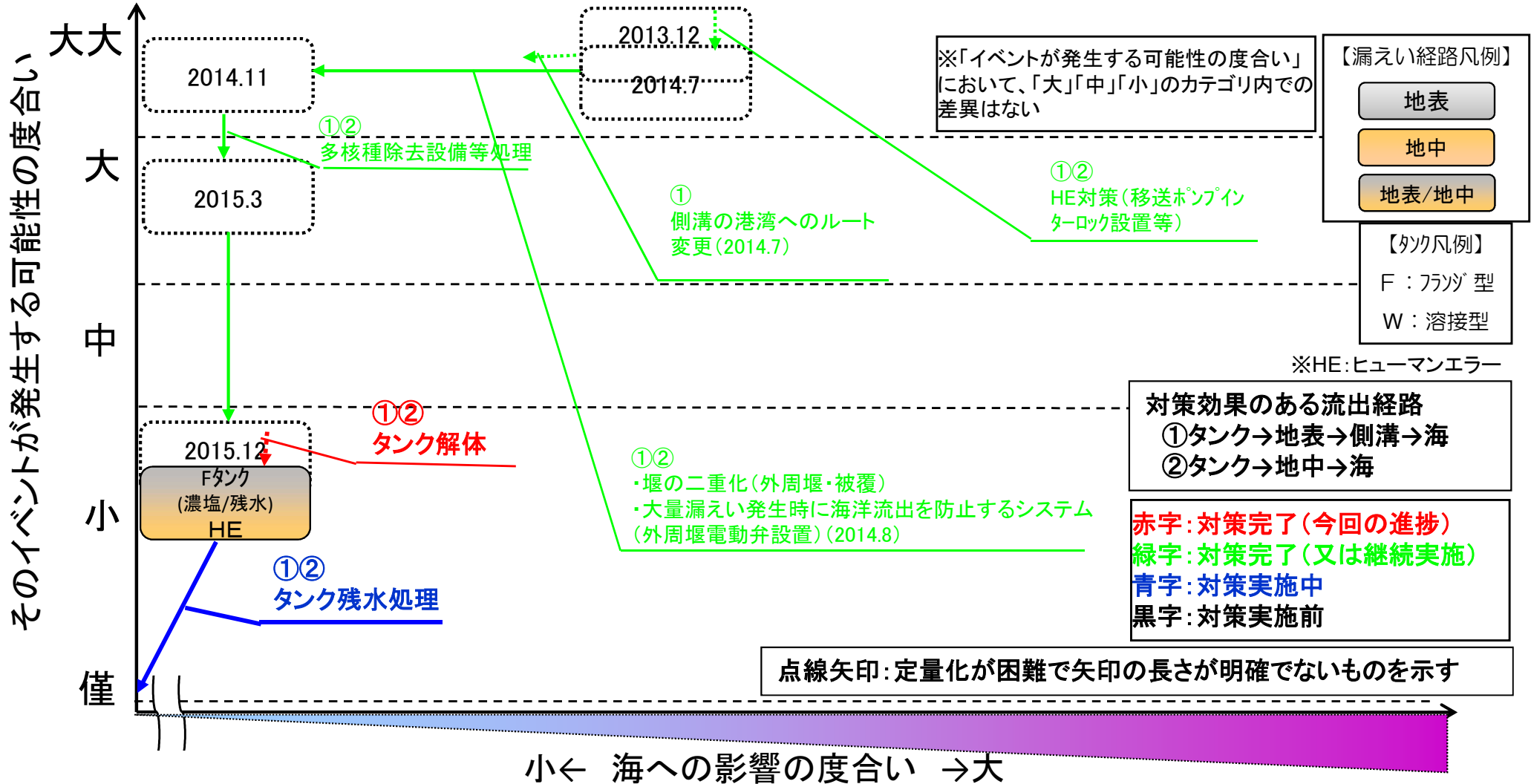
■ 1～4号機建屋については、サブドレン水位低下に合わせた建屋水位低下に伴い、**水量が徐々に減少**。

そのイベントが発生する可能性の度合い

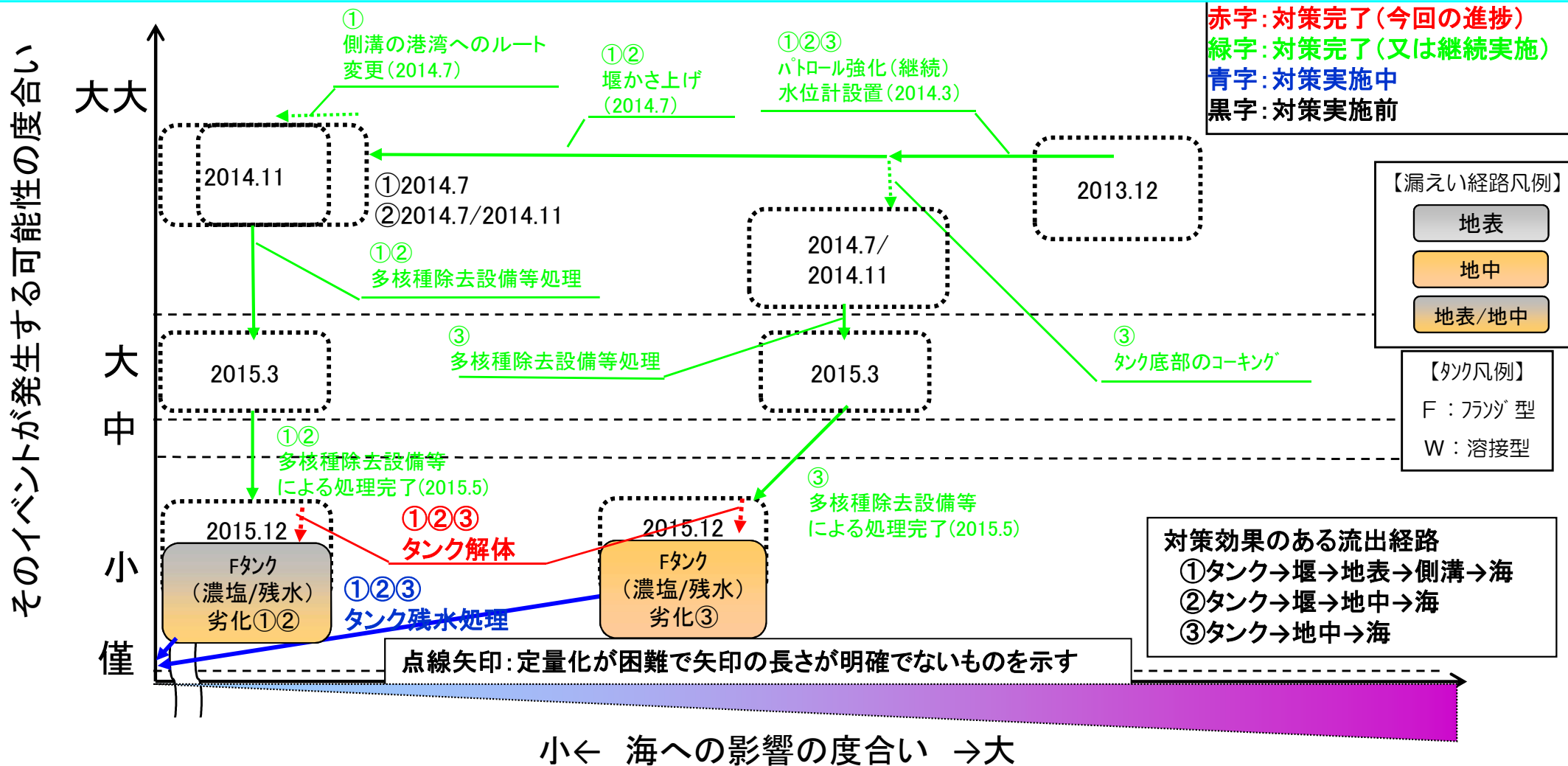


赤字: 対策完了(今回の進捗)  
 緑字: 対策完了(又は継続実施)  
 青字: 対策実施中  
 黒字: 対策実施前

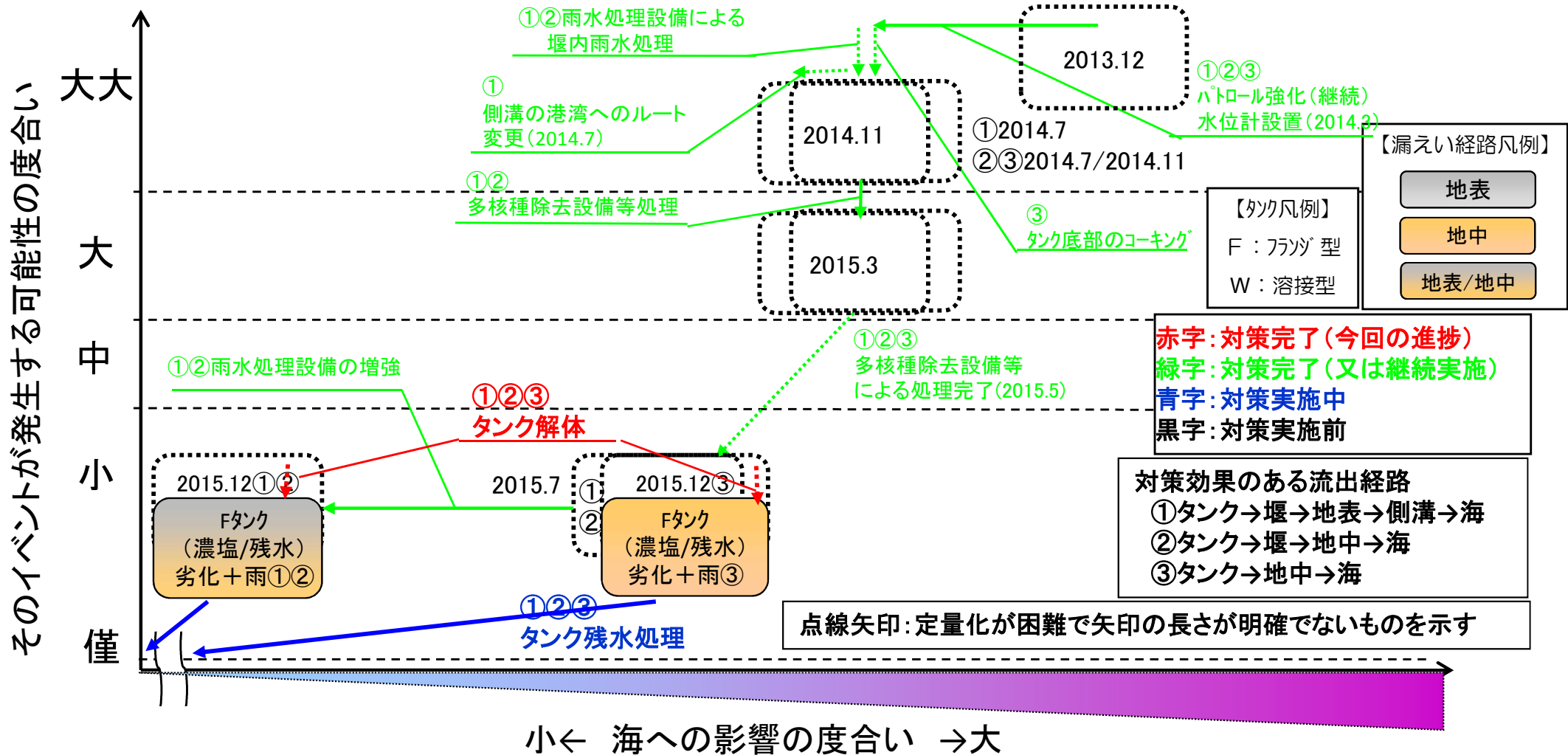
- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了。
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。
- フランジタンク解体の進捗により、フランジタンク基数が減少。**



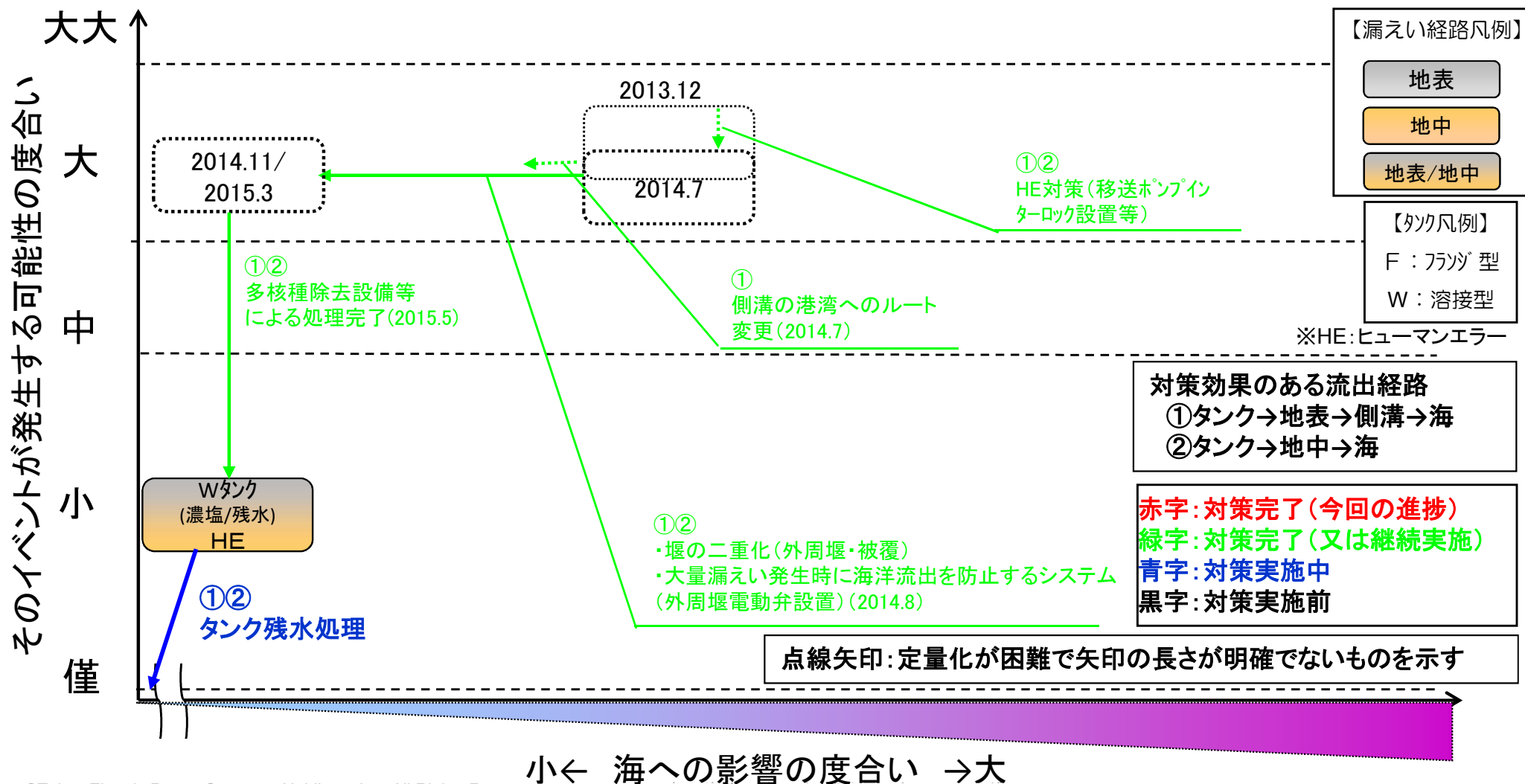
- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了。
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。
- フランジタンク解体の進捗により、フランジタンク基数が減少。



- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了。
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。
- フランジタンク解体の進捗により、フランジタンク基数が減少。**

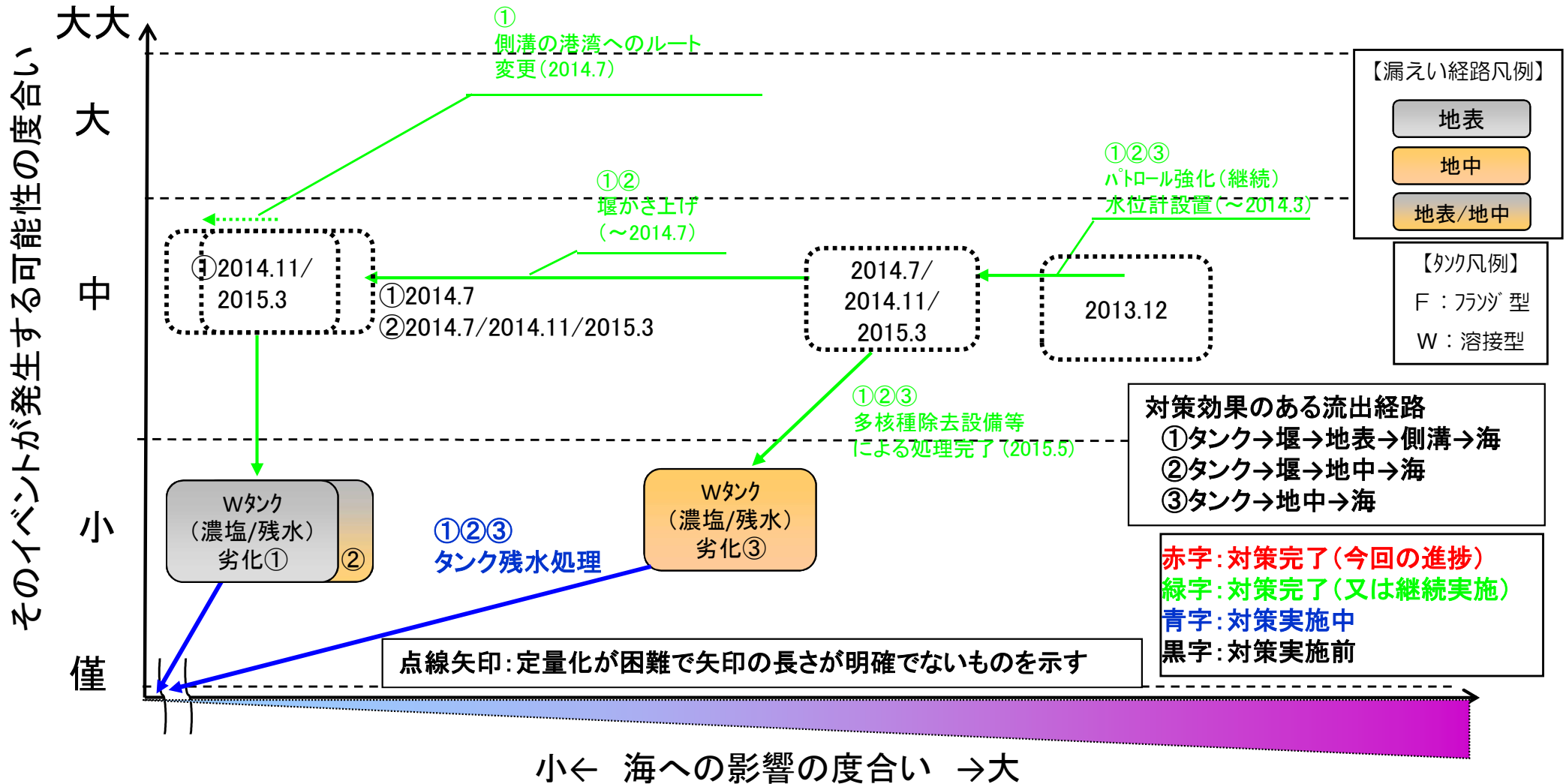


■多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了  
 ■残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。

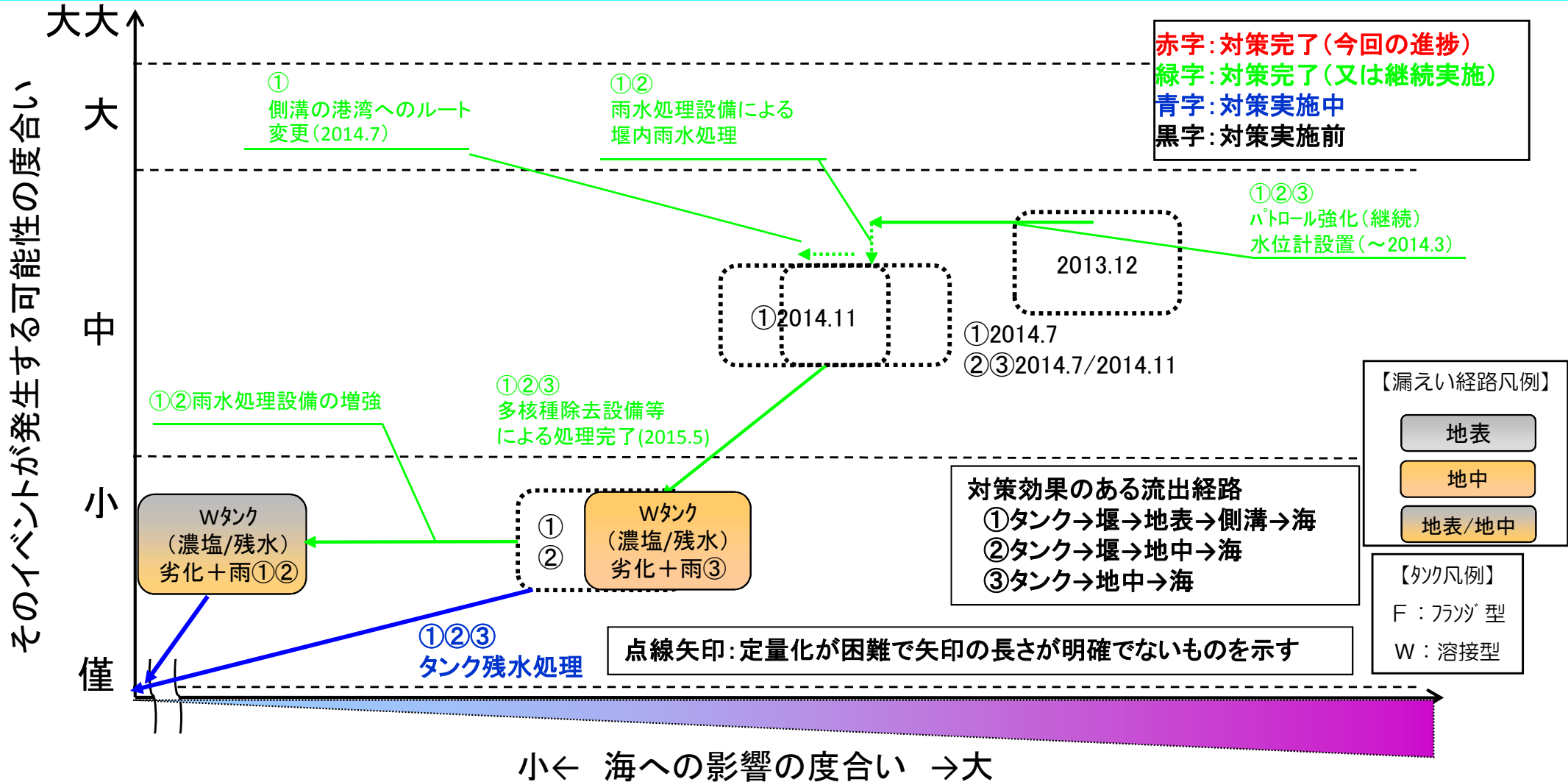




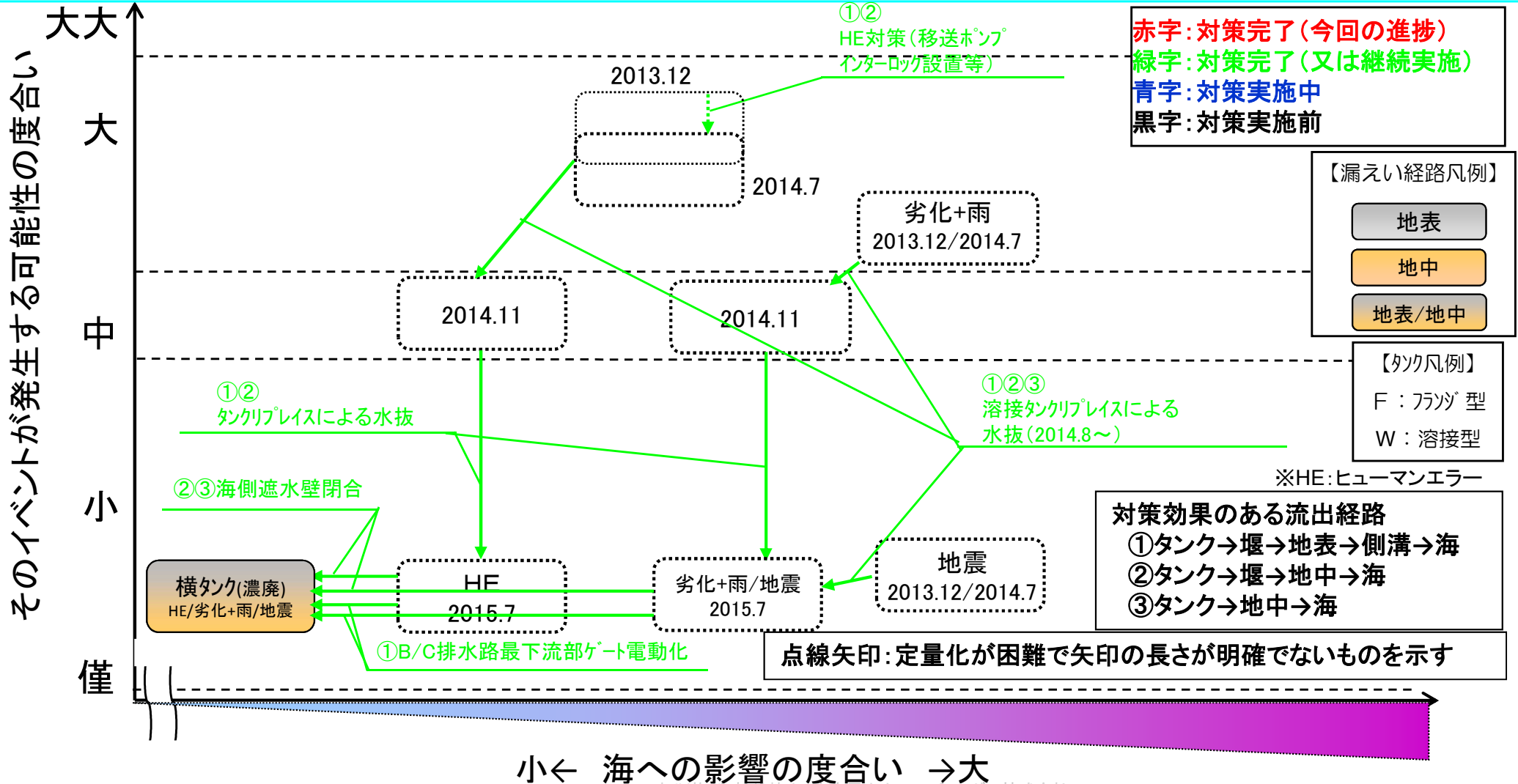
- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。



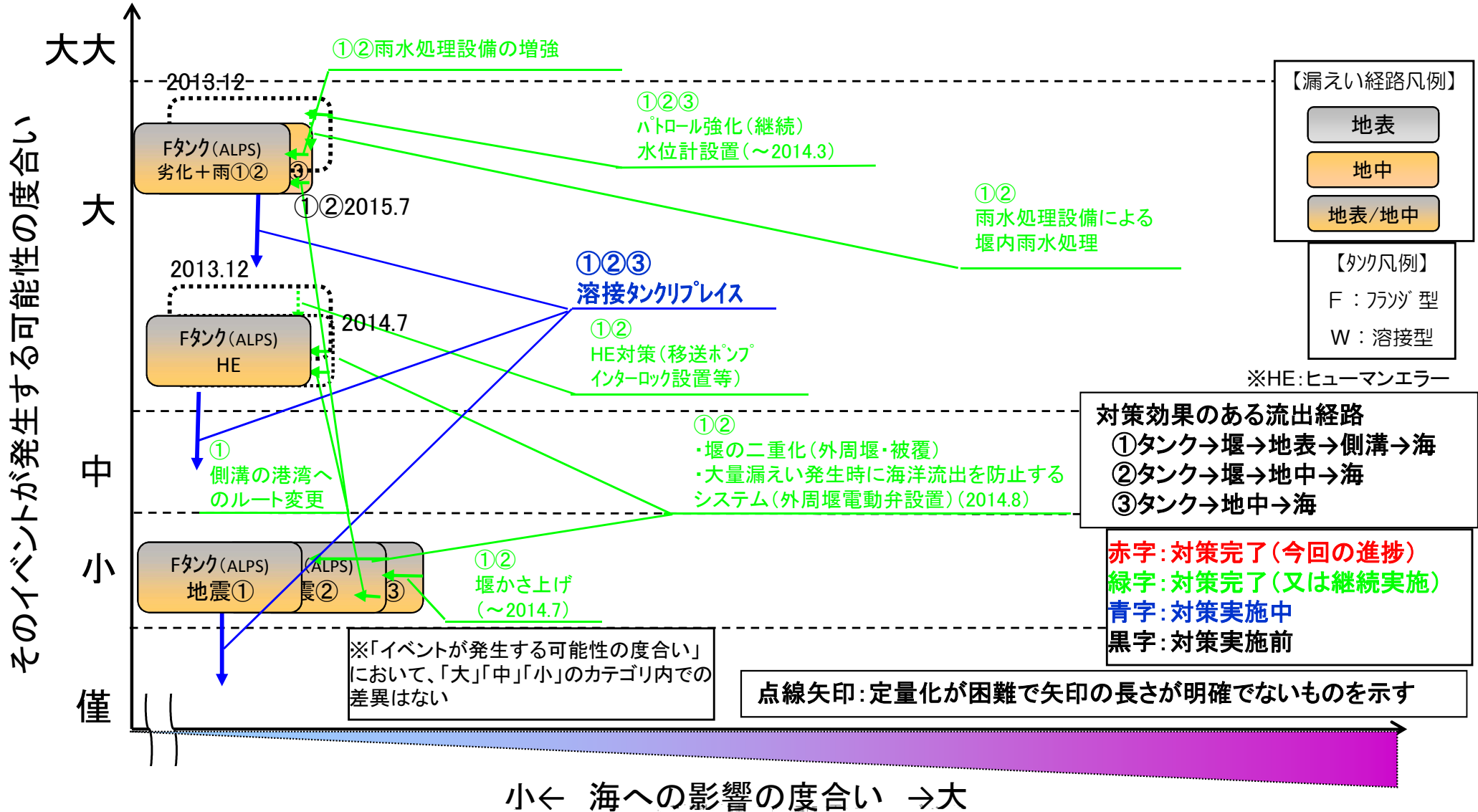
- 多核種除去設備やその他の浄化設備により、タンク底部の残水を除き、2015年5月に濃縮塩水の処理が完了
- 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減。
- 残水処理にあたっては、安全を最優先に考え、ダストの飛散防止・被ばく防止対策等を十分に施しながら、タンク解体時に順次処理。



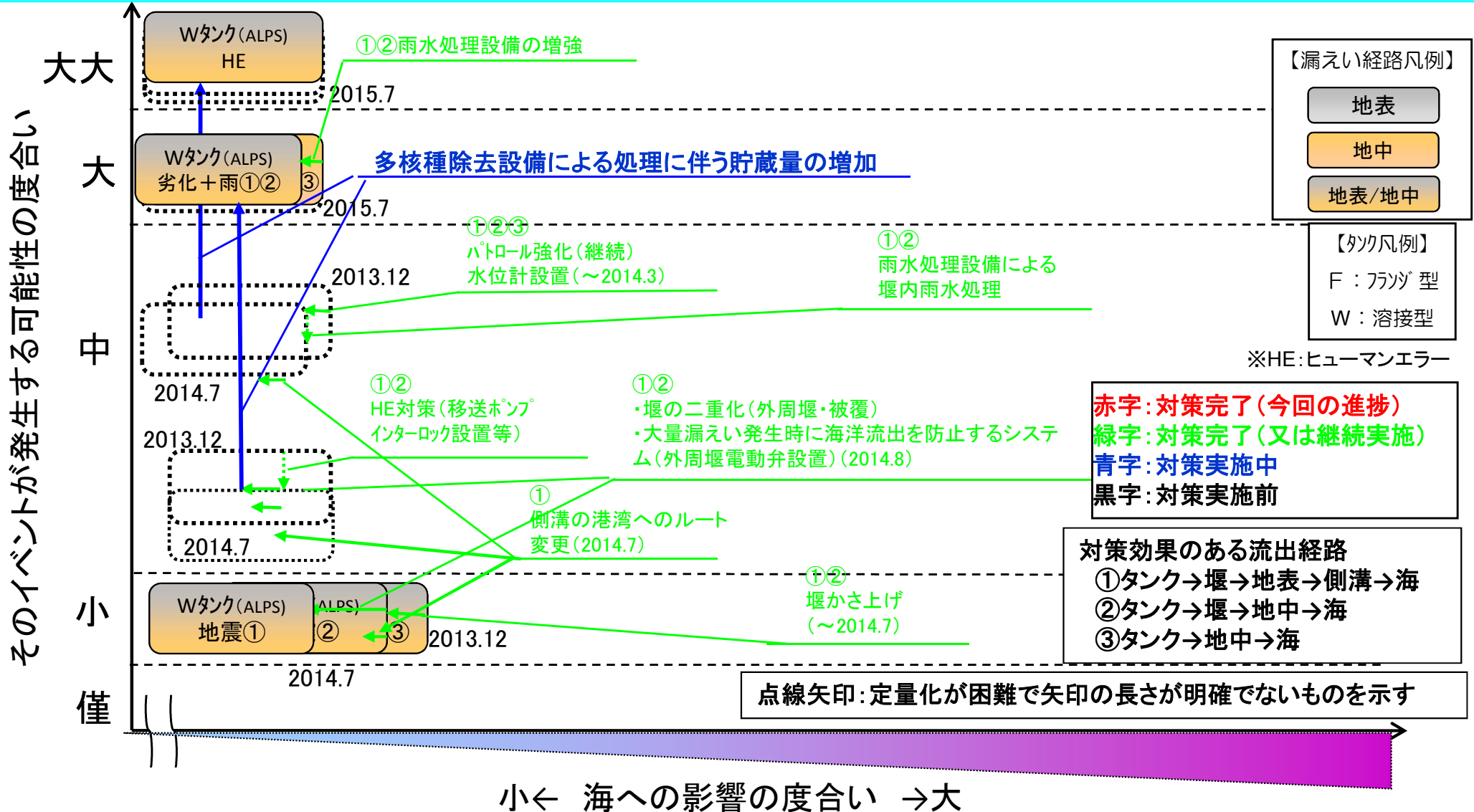
- 横置きタンクよりポンプでくみ上げ可能な汚染水を除去し、タンクの撤去を実施中。
- 海側遮水壁の閉合により、地中を経由し護岸付近の地下水から海洋への流出が抑制。
- B/C排水路最下流部のゲート電動化により、地表での大量漏えい時の海洋流出が抑制
- 残留するスラッジ分は、水処理二次廃棄物と同等の管理とする。



- 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
- タンクリプレイスにより、劣化による漏えいリスクを低減。



- 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
- スロンチウム処理水の処理に伴い、継続的に処理水貯蔵量が増加中 (イベント発生可能性の度合いが増大)。



- 雨水処理設備の増強により、降雨時の漏えいリスクが低減
- B/C排水路最下流部のゲート電動化により、地表での大量漏えい時の海洋流出が抑制
- ストロンチウム処理水については、多核種除去設備で再度処理を実施中。

